

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和元年度)

2. 分野別状況 (2) 地域活性化総合特区 ②ライフ分野 (3/10)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
東九州メディカルバレー構 想特区 (大分県、宮崎県)	4.0	進捗度 ・医療関連機器の市場化件数 144% ・新規医療機器製造登録事業所・製造販売許可業者数 150% ・新規輸出する医療関連機器を製造する企業 50% ・新規海外医療技術人材育成数 722%	規制の特例等 ・非治験臨床性能評価制度適用の拡大 財政支援等 ・医療関連機器産業参入促進事業 地域独自の取組 ・大分県医療機器産業参入加速化事業 ・宮崎県産学官共同研究開発補助金 等	4.2	・海外医療技術人材育成と医療関連機器の開発実用化が着実に進んでいることが評価できる。県レベルのパートナーシップによる産官学協働事業の好事例である。 ・保健医療人材の能力強化、医療水準の向上に関する研修を実施し、タイで日本式医療システムの普及・啓発等の取組を進めている点は国際貢献の点からも特筆に値する。 ・コロナ禍の中で取組に支障が出ている面と新規参入の両面の存在が認識されている点は、的確な判断がなされている。 ・「介護・福祉機器分野を含む医療関連機器産業の国際競争力及び産業競争力の強化と海外市場への展開」について、必要な規制緩和の検討や進捗が判る評価指標の設定が必要ではないか。 ・評価指標(4)「新規海外医療技術人材育成数」の数値目標(4)－①「大分・宮崎両県の産学官による新規海外医療技術人材育成数」、数値目標(4)－②「上記のうち、血液・血管分野の新規海外医療技術人材育成数」については、新型コロナウイルスの影響について平常に戻った際に目標数値の見直しが必要である。 ・海外医療技術人材育成については、人数だけでなく質の評価についても検討する必要があるのではないか。 ・全体としてうまくいっており、大分県、宮崎県それぞれの成果が出ていることは分かるが、両県のシナジー効果分かるようになるとなお良い。